

7 国際交流

進捗状況報告

2006、2007年度とも、総合政策学部の学生が、国連セミナーや国連ボランティア計画・国連情報技術サービス（UNITeS）の参加者に占める割合はきわめて高いといえる。総合政策学部の学生で、2006年度の国連セミナー参加者は、11名（50.0%）、UNITeS（春）参加者は5名（内1名は大学院生）（83.3%）、UNITeS（秋）参加者は4名（100.0%）、2007年度の国連セミナー参加者予定者は7名（41.2%）、UNITeS（春）参加者は3名（100.0%）、UNITeS（秋）参加者予定者は4名（66.6%）である。引き続きこの状態が維持できるように努力したい。

学内第三者評価

総合政策学部が2003年度設定していた目標である学部国際交流の担い手としてその先導者の役割を担っていることは、認証評価でも高く評価されている。今後も関西学院大学のこの分野のリーダーとして、より高い目標を設定して取り組みを進めていくことが期待される。

また、2003年度設定された目標の一つである「外国人教員の積極的受け入れ」については、その実績が認められるものの、より一層の成果が望まれる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- ・国連セミナーなど国連関係プログラムへの参加も活発であり、留学生の数も多く、学部の国際的空氣の密度は高い。教員の海外出張も多いが、交流がやや一方的ではないか。海外著名人の来訪があるとはいえ、外国人研究者の受け入れは学内で最も多いが、さらなる増加への努力に期待したい。